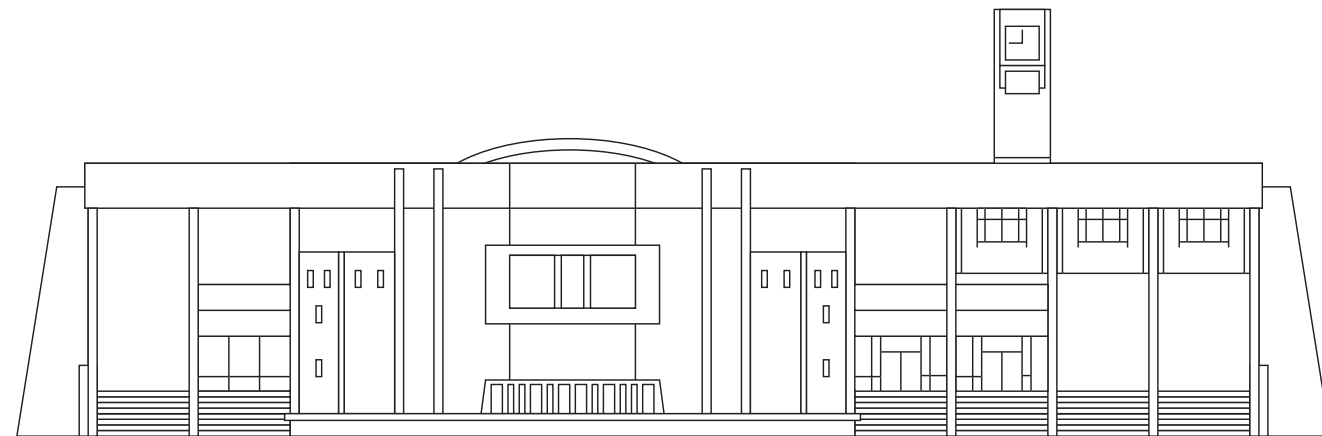


名古屋大学全学同窓会 10周年記念誌

名古屋大学全学同窓会
10周年記念誌



平成
24
年
10
月

NUAL

名古屋大学全学同窓会
10周年記念誌

NUAL

目 次

会長 あいさつ	1
総長祝辞	2
祝 辞	3
名古屋大学全学同窓会設立10周年の経緯	8
全学同窓会支部設立とその後のあゆみ	14
寄付講義	22
支援事業	24
同窓会について	33

会長 あいさつ

名古屋大学全学同窓会 会長
トヨタ自動車(株) 名誉会長
豊田 章一郎



名古屋大学全学同窓会が、2002年10月に「社会と大学を結ぶ組織」という理念を掲げて設立され、皆さまのご支援により本年で満10周年を迎えます。

私は、全学レベルの同窓会をつくることにより、大学全体と卒業生・修了生のつながりを強め、名古屋大学と社会の発展に貢献させていただきたいと考え、創設以来今日まで名古屋大学全学同窓会の会長をお引き受けして参りました。

この間、国内では関東支部、遠州会、関西支部の3支部を、また、海外では韓国、バングラデシュ、上海、タイ、北京、ベトナム、カンボジア、モンゴル、ウズベキスタンおよび台湾の10の支部を立ち上げてきております。各海外支部の支部長は、名古屋大学に留学され各種の学位をとられた方々になっていただき、この10周年記念行事にも参加いただきます。今後名古屋大学がアジアに強い、特色ある大学として発展していくことを期待しております。

また、大学支援事業や同窓会カード（名古屋大学カード）の発行、大学内での講演会や寄付講義など、大学と一体となって情報発信や各種活動を展開してまいりました。

名古屋大学は、2004年4月に国立大学法人名古屋大学として新たにスタートいたしました。全学同窓会の4名の会員の方のノーベル賞受賞をはじめ、グローバルCOEや国際化拠点整備事業（グローバル30）の採択など、多くの分野で注目されており、その活躍は目覚ましいものがございます。卒業生としては誠に喜ばしい限りです。

そして今日、濱口総長のリーダーシップのもとに、名古屋大学の伝統である清新で自由闊達な学風を活かし、世界に、そして社会に開かれた大学として更なる飛躍を期す取り組みが進められております。全学同窓会も財政基盤をさらに充実させ、物心両面で支援してまいりたいと思っております。皆様の益々のご支援・ご協力をお願いいたします。

名古屋大学全学同窓会設立10周年を祝して



名古屋大学総長
濱口 道成

名古屋大学全学同窓会の設立10周年にあたり、謹んでお祝いを申し上げます。名古屋大学全学同窓会は、国立大学が法人化されるにあたり、「大学と社会を結ぶ必須の組織」として、豊田章一郎同窓会会長のもと、平成14年に設立されました。爾来10年、激変する時代の中で、献身的な活動により母校を支えて頂きました。また、同窓会支部は、国内3支部、海外10支部となるまで、発展しております。この間にお世話頂きました諸先輩のお気持ち、お顔を心に浮かべつつ、皆様から頂きました深い母校愛に、心より御礼申し上げます。

今日本は、様々な面で転換期にあると言えます。法人化後、大学は年々予算が削減される中で、その在り方、教育研究の質が厳しく問われています。一方、日本は厳しい経済状況の中で少子高齢化が加速し、またリーマンショックや東日本大震災を体験してきました。これらの背景のもと、日本が未来への希望を持って発展していくためには、高等教育が果たすべき役割は益々重くなっていると言えます。しかし、どのように環境が変わるとも、日本の基幹総合大学として、名古屋大学がその学術憲章に掲げる使命、即ち「名古屋大学は、自由闊達な学風の下、人間と社会と自然に関する研究と教育を通じて、人々の幸福に貢献することを、その使命とする。とりわけ、人間性と科学の調和的発展を目指し、人文科学、社会科学、自然科学をともに視野に入れた高度な研究と教育を実践する。」の持つ価値は変わることがありません。創基140年余、設立73年の歴史の中で、名古屋大学が到達した成果は、ノーベル賞受賞者の輩出はもとより、COE、GCOEや名古屋大学独自の人材育成制度（YLC、学術奨励賞）等で示された若手研究者の成長、そして秋入学ですべての講義を英語で提供するG30プログラムで代表される教育改革の中に示されています。云うまでもなく、これらの活動の多くが、全学同窓会のご支援なくしては、高い達成度を持って実現しませんでした。改めてご支援に深く感謝致します。

さて、名古屋大学は、1871年、仮病院、仮医学校が設立されたことに始まります。その後、幾多の変遷を経て1920年愛知医科大学が創設され、1931年、国立移管により名古屋医科大学が設置されました。1939年には、名古屋医科大学を吸収し、医学部と理工学部からなる最後の帝国大学である名古屋帝国大学が創設されました。この国立移管までの苦難の歴史に思いを馳せる時、名古屋大学は如何に深く地元の方々に支えられ、発展してきたかを改めて実感します。この地に期待され、また中部の人材育成に使命を持つ名古屋大学の役割は、中部の産業の発展と共にあり、また深化してきたと言えます。この点で、「創造的な研究活動によって真理を探究し、世界屈指の知的成果を産み出す」と共に、「中部・日本の人材育成に貢献する」と言う名古屋大学の使命は、車の両輪のように名古屋大学の個性を示し、発展の原動力となるものであります。

時代の転換点にあたり、多くの困難が我々の眼前に広がると実感します。しかし、名古屋大学は「名古屋大学からNagoya Universityへ」を目指し、更なる高みへと発展を目指します。全学同窓会諸先輩の、変わらぬそして熱いご支援を引き続きお願い申し上げます。

祝 辞

名古屋大学全学同窓会 副会長
J. フロントリテリング(株) 相談役

岡田 邦彦



本年6月、経済学部同窓会「社団法人キタン会」の会長を退任致しました。光陰矢の如し、11年も努めさせて頂いたこととなります。退任の挨拶を求められましたので、同窓会に関する所感の一端を、KITANのイニシャルを織り込んで、次のように述べました。

KNOW - WHO IS LIFE.

自分自身も含めて、人間を知ることが生きることである。人脈も一朝一夕にはできない。

INITIATIVE IS KEY.

自発性が問題の扉を開くカギである。人が何をしてくれるかより、自分にできることは何かを考えよう。

TRADITION IS SPIRIT.

伝統こそ心意気である。先輩から受け継いだ宝物を後輩に手渡そう。

AFFECTION FOREVER.

母校に対する愛情を持ち続けよう。

NAME IS PRIDE.

誇るべき母校の名前を汚さぬよう、品位ある言動を心掛けよう。

私は常々“同窓会はKNOW - WHOの場”と申し上げてきました。いわば世代を超えた異業種交流の場です。社会との関わりが旺盛な人の寿命が明らかに長い、という研究結果も報告されています。また、大学のブランド価値を高める同窓会の役割も大きいものがあります。

10周年を機に、今後とも名古屋大学全学同窓会の益々の発展を祈念する次第であります。

名古屋大学全学同窓会 副会長
日本ガイシ(株) 相談役

柴田 昌治



名古屋大学全学同窓会が設立10周年を迎えるにあたり、お祝いを申し上げる機会を得ましたことを大変嬉しく思います。

平成14年に設立された全学同窓会は、大学と社会を繋ぐものとして産学官の代表者が、経営協議会や総長選考会議のメンバーとなり部局同窓会と連携しながら、卒業生・学生・教職員の交流を促進する上で重要な役割を果たしてきました。

また、今日のグローバル社会を見据え、同窓会海外支部として10ヶ所を立ち上げ、人と人とのつながりをネットワーク化するための重要な土台となっています。

同窓会としましても、これまで以上に名古屋大学の存在を積極的に世界にアピールすることにより、大学の国際化に協力しグローバル時代に対処していく役割を担っていかねばならないと感じております。

全学同窓会副会長として微力ではありますが、協力を惜しまないつもりです。

最後になりますが、10周年を迎えた名古屋大学全学同窓会が新たな信念をもって挑む今後の活躍に期待を寄せつつ、名古屋大学および全学同窓会の更なる発展を祈念いたします。

名古屋大学全学同窓会 副会長
関東支部長
中華人民共和国駐劄特命全權大使
丹羽 宇一郎



名古屋大学全学同窓会が、本年、設立10周年を迎えましたことに、心よりお喜び申し上げます。

10年前、部局同窓会の枠を越えた全学的な広がりをもった新しい形の同窓会活動として「全学同窓会」が設立されて以来、その「設立理念」の実現のために様々な活動を積み重ねてこられました大学関係者及び同窓生の皆様の多大なご尽力に、心より敬意を表します。

「設立理念」にもあるように、留学生を含む同窓生の活動を把握し、人的交流を促進することは極めて重要であります。現在私がおります中国からは、毎年、約9万人の留学生が日本で学んでいます。これは、世界各国からの在日留学生総数の6割強を占めます。今迄、名古屋大学に留学された多くの方々が、現在、中国の大学、企業、研究機関等で指導的役割を果たしておられます。

母校への熱い思いを共通の基盤とする同窓会組織は、より強固なネットワークに基づいた、生きた情報の共有や発信ができる、非常に大きな可能性を秘めた存在です。グローバル化が進展している今日、大学の同窓会を通じた世界レベルのネットワークの強化は、すべての日本の大学の共通課題であると思えます。名古屋大学全学同窓会は、その先駆けとして、すばらしい成功例を示しています。今後とも、引き続き発展を続け、また、同窓会組織ならではの大きなパワーを発揮することを期待しております。

名古屋大学全学同窓会 副会長
(独)国立病院機構
名古屋医療センター 名誉院長
齋藤 英彦



2002年秋に設立された名古屋大学全学同窓会が10周年記念を迎えたことは誠にお目出度いことであり、会員の一人として大変嬉しいことでもあります。この10年間に、名簿の整備、ニューズレターの発行、ホームカミングデイの実施、講演会や行事の支援、学生活動支援などと活動の幅を広げて、会員約10万人、3つの国内支部、10の海外支部と大きく成長しました。これも卒業生および旧教職員のご理解とご協力および代表幹事をはじめとする実務担当の方々のご尽力の結果であります。アジア各国で活躍する留学経験者とのコミュニケーションや連携・交流を続けることは名古屋大学のみならず我が国の将来にとっても重要なことと思えます。

従来、国公立大学では、大学と卒業生および卒業生同志の絆が私立大学ほど強くない傾向がありました。国立大学では施設整備や各種の行事もすべて国の予算に頼ってきたのに対して、私立大学では卒業生の母校意識が強く大学をサポートする伝統があります。しかし、時代の流れとして国公立大学に対する国の財政援助は益々縮小しつつあり、国立と私立との境目は曖昧になりつつあります。名古屋大学が国際的な大学間競争を勝ち抜くために全学同窓会が物心両面からサポートすることが必須であります。

全学同窓会が「大学と社会を結ぶ拠点」として規模と内容において益々充実・発展していくことを期待します。

名古屋大学全学同窓会 副会長
東レ(株) 代表取締役 会長
榎原 定征



名古屋大学全学同窓会が創立10周年を迎えるにあたり、心からお祝いを申し上げます。我々の母校である名古屋大学は、多様性を許容し個性を尊重する「自由闊達」な学風を誇り、「勇気ある知識人の育成」と「世界屈指の知的成果」を学術憲章に掲げて、4人のノーベル賞受賞者を含む優れた研究者や新時代を切り拓くことができる幾多の優秀な人材を輩出してきました。

最近では様々な世界大学ランキングでも目標の100位以内に入り続けて、名実共に世界的な研究教育拠点に名を連ねるようになったことは、我々同窓生の大きい喜びであると同時に、大きな誇りとするところでもあります。

現在、世界はまさに科学技術、イノベーションの強化に向けた熾烈な競争を繰り広げておりますが、その中で名古屋大学が世界最高水準の研究・教育を目指し、国際社会で活躍する人材を多数輩出し、日本の「科学技術立国」実現の原動力であり続けることを切に希望します。

ひとつの事例として、本年名古屋大学に炭素繊維の実用化でオールジャパンの力を結集すべくナショナルコンポジットセンター（NCC）が設立されましたが、この炭素繊維は比重が鉄の4分の1で比強度は10倍といった特徴を有し日本が世界をリードする夢の材料であり、NCCの成果にも大きな期待を寄せております。

最後に全学同窓会の副会長を拝命する立場から、益々の発展を続ける母校に対して、我々同窓生による一層のご支援をお願い致しまして、私からの祝辞とさせていただきます。

名古屋大学全学同窓会 副会長
中部電力(株) 代表取締役 副社長
宮池 克人



日頃の皆様のご支援ご協力により、名古屋大学全学同窓会は、設立10周年を迎えることができました。心より御礼申し上げます。

豊田講堂を背に西の方を眺めると、キャンパスの後方には、名古屋市街地、濃尾平野、はるか木曾三川、鈴鹿から美濃に連なる山並みが、発展する中部地域を象徴する様に、雄大な景観を展開しています。

中部地域は我国のモノづくりの中核をなすとされ、広く世界へ向け発展するための、国内で最も重要な拠点でもあります。

私は、名古屋大学と中部地域が密接に連携して世界へ大きく発展していくことを願うものであります。

全学同窓会は、中部地域の学術と人材育成の中心的役割を担う名古屋大学が、地域と世界に貢献するための架け橋として、また名古屋大学の発展と会員の皆様の交流・親睦に役立てることを目的としています。

この趣旨をお酌みとり頂き、今後とも、広く会員の皆様のご参加とご支援をお願い申し上げます。

名古屋大学全学同窓会関西支部長
笥 哲男



名古屋大学全学同窓会設立10周年、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

顧みますと、全学同窓会関西支部も本年11月には設立8年目を迎え、感慨深いものがあります。設立時には関西フォーラムを大阪の地で開催していただき、600名を超す会員の参加もあって盛大に先端技術の紹介や産学連携のための交流を実施頂きましたこと、記憶に新しいところで厚く感謝申し上げます。その後は毎年、平野真一前総長、濱口道成総長のご臨席のもと、支部総会を開催、大学の実情についてホットなニュースを紹介いただき、大学の絶え間ない発展に心強さを感じてまいりました。この間、ノーベル賞受賞の快挙は同窓生としては忘れられない感激でした。

さらに、毎年開催されておりますホームカミングデイも年々充実しており、常に新しい発見があると参加者には好評で、特に今年は10周年記念ということで、どんな催しがあるか大いに期待しているところです。

これを機会に全学同窓会が益々充実し、名古屋大学も国際化時代にふさわしい総合大学として大きく発展することを祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。

名古屋大学全学同窓会遠州会会長
庄田 武



この度は名古屋大学全学同窓会が設立10周年を迎えることになり、まことにおめでとうございます。全国有数の基幹的総合大学である名古屋大学が、夫々伝統を持つ各学部同窓会の枠を超えた全学同窓会を設立し、10年間活発な活動を続けてきたことはたいへん意義深いことだと思います。全学同窓会の活動については「名古屋大学全学同窓会設立の理念」に掲げているように、研究分野の複雑化、学術的研究や国際交流の進展、情報や人的交流の必要性等の現代的課題に同窓会が大学と一体化して応えているわけで、すばらしいことだと思います。

これは伝統的に進取の気性と時代を先取りする洞察力や意欲に富む名古屋大学の同窓会らしい先進的などりくみといえます。全学同窓会は今日までに海外に10支部を立ち上げ、国際的ネットワーク化をすすめたり、特色ある学術研究に対する顕彰、支援を行っていますが、同窓生としてたいへん嬉しく誇らしく思います。

名古屋大学遠州会は、静岡県西部地域に居住する名大卒業生が学部を超えて交流の場を持つということ、各学部卒業生有志が話し合って平成8年に結成した同窓会で、毎年例会を開いて会員相互の親睦を深めています。甚だ小規模な組織ですが、全学同窓会のご尽力で支部として認知され、様々な形で活動を支援していただいています。まだまだ発展途上の組織ですが今後更に活動を活発化して、支部としての存在感を高めたいと思っています。

名古屋大学全学同窓会モンゴル支部長

Altantuya Jigjidsuren



Dear Mr. Shoichiro Toyoda, President of NUAL

Dear Mr. Michinari Hamaguchi, President of
Nagoya University

On behalf of the Mongolia branch of NUAL, I
congratulate you, our Alumni, and our Univer-
sity on the 10th Year Anniversary of NUAL.

NUAL is not just an official bind between the
University and its graduates. NUAL promotes
good relationship between its alumni. NUAL
makes us feel like we are part of and we be-
long to the University, the world recognized
educational and research institution, with its
outstanding staff with advanced experience,
knowledge and wisdom. And NUAL makes us
feel our responsibility to contribute to the de-
velopment of our countries. In this perspective
I think that NUAL is doing right.

Thank you, NUAL, for keeping the doors of the
University open.

I wish we may celebrate far more of these
monumental anniversaries together.

Sincerely yours

Altantuya Jigjidsuren

Head of NUAL Mongolia Branch

名古屋大学全学同窓会設立10周年の経緯

名古屋大学全学同窓会
代表幹事

伊藤 義人



1. はじめに

名古屋大学全学同窓会は、平成16年度の国立大学の法人化を控えた、平成14年10月27日（日）に設立されました。11万人を越える会員を持つ同窓会であり、豊田章一郎会長はじめ、多くの卒業生・修了生に、設立からこの10年間大変ご尽力を頂きました。

一時に大きな資金を集めて、一部の私立大学の同窓会のような活動を行うべきという議論もありましたが、10年後、20年後に後ろを振り返った時に、設立の理念に沿って成長していることを少しでも実感できる総合国立大学らしい全学同窓会にすることが基本方針でした。10年を経た今、これが実現の方向に向かっていくのか、少しだけ振り返りたいと思います。

2. 全学同窓会設立の背景と経緯

従来からあった学部や学科単位の同窓会だけではなく、大学全体の同窓会が必要であるということは、古くから認識されていたようです。私立大学や国立の単科大学の中には、全学レベルの強力な同窓会を持つ大学があることはよく知られていました。ある部局同窓会が、名古屋大学創立50周年を契機に、全学展開をしようとして、反対があり頓挫したと聞いています。部局同窓会からの働きかけだけでは、全学レベルの同窓会設立は難しいということでした。

平成12年に、私は附属図書館長に就任し、国立大学図書館協議会で法人化の議論を始めて、名古屋大学も法人化によって独自の経営や社会とのつながりが必要となることを強く感じました。それまでも、土木工学科の同窓会「鏡ヶ池会」の幹事や幹事長を経験してきましたが、平成13年に工学部・工学研究

科同窓会の副会長になり、大学本部と部局同窓会の両方に足がかりができ、全学同窓会設立の絶好の機会だと思いました。そこで、工学部・工学研究科同窓会の幹事会で全学同窓会設立の起案を行い、各部局同窓会に働きかけることを了承してもらいました。この後、部局長会で一緒であった医学部同窓会「学友会」の会長（医学部長の勝又先生）や経済学部同窓会「キタン会」の事務局長など、主な部局同窓会の役員とコンタクトを取りました。国立大学の法人化対応ということで概ね賛同を得ました。大学全体が社会に開かれ、種々の情報公開やアカウントビリティが求められていた状況が背景としてあったと思います。すなわち、まず卒業生・修了生などと連携協力し、大学への理解と支援を得て、そこから社会に開かれた大学を目指すということでした。

しかし、どの部局同窓会も財政事情は苦しく、分担金などの負担はできないので、全学同窓会は独自の財政基盤を築くこと、および全学同窓会は部局同窓会の上位組織ではないということを前提にしてほしいということでした。すなわち部局同窓会からは、人的な支援と精神的な協力にとどめてほしいということでした。

そこで、平成13年10月に松尾総長（当時）にご相談して、設立準備委員会を評議会の上で立ち上げてもらい、総長指名で私が委員長になりました。松尾総長は、私が教授として所属した理工科学総合研究センター（現エコトピア科学研究所）の初代センター長であり、土木教室の先輩教授でもあったので、相談がしやすかったという事情もありました。

本来は、部局長会で設立準備委員会設置の承認

をしてもらう予定でしたが、手違いで急遽評議会での承認になりました。設置前の各部局同窓会などの意見を集約して、基本的な賛同を得ると共に、どのような問題点があるかをまとめていましたので、各部局同窓会やその他から委員を出してもらい直ぐに検討を行うことができました。平成13年12月には正式な合意ができ、全学同窓会設立に向けて次の段階の設立委員会が設置され、以後毎月委員会が開催されました。

事業、財務、名簿の3つの小委員会も同時に設置されました。最初に、設立の理念を作成するため、全学同窓会のあり方を徹底的に議論しました。全学レベルの同窓会の名称については、種々の案が出ましたが、議論の末、平凡ですが、「名古屋大学全学同窓会」としました。英文名称は「Nagoya University Alumni Association」として、略称を「NUAL（ニューアル）」としました。その後、会則案、役員案などを順次決定しました。平成14年3月には、全学同窓会プレ発会式を行い、設立委員会委員、部局同窓会役員、総長・副総長などの学外・学内の方々の懇談会を行いました。太田全学同窓会顧問には、このとき大変お世話になりました。そして、

平成14年10月27日に、約600人の参加者を集め、豊田講堂で設立総会、記念講演会、祝賀会を実施致しました。図-1と図-2(a)、(b)が、そのときのポスターと設立総会の時の写真及び新聞掲載記事です。豊田章一郎氏が全学同窓会会長に就任されました。

法人格（当時は中間法人や社団法人）を取得することも検討するため他大学の状況も調査に行きましたが、税制上の特典が得られないなどの理由であきらめました。

3. 名古屋大学全学同窓会の特徴

名古屋大学全学同窓会は、「大学と社会を結ぶ必須の組織として新しいタイプの同窓会を目指す」ことを会の目的としています。すなわち、大学を支援し、また大学と一緒に社会貢献を目指すことを主な目的としています。そのため、社会貢献人材バンクを作ることを考えました。以後、部局同窓会の協力を得て、インターネットを使った卒業生等の電子名簿データベースにつながり、現在では、これを発展的に全学同窓会から大学へ移管し、再構築して全ての卒業生・修了生のレコードが整備され、インターネットを使っ



図-1 設立総会のポスター



図-2(a) 設立総会の写真

中日新聞 (H14.10.28)

一層の連携めざし
全学同窓会設立
名古屋大で総会

名古屋大学「全学同窓会」の設立総会が二十七日、名古屋市中千種区の豊田講堂で開かれた。卒業生や教職員ら約五百五十人が出席した。

部局別の同窓会はずでに広がるが、活動はそれぞれが部局に限定されていた。全学同窓会はこのまま以上の社会貢献や連携を目指している。

総会では、同大卒業生で、会長に就任した豊田章一郎・トヨタ自動車名誉会長が「卒業生だけでなく、教職員も対象とした新しいタイプの会。名大のアイデンティティを大切にしながら、国際的に貢献したい」とあいさつ。松尾稔学長は「大学と社会の交流の核に育つほしい」と話した。

図-2(b) 新聞掲載記事

て自分の住所変更を留学生も含めて登録できるようになりました。まだ、発展途上ですが、今後、多くの卒業生・修了生の利用を期待します。

全学同窓会は、卒業生や修了生だけでなく、教職員、旧教職員、短期留学生、現役学生(準会員)など、名古屋大学に在籍された方や学位を取られた方など、名古屋大学関係者全てを同窓会員としていることも1つの特徴です。

全学同窓会は、最高意思決定組織として評議員会があり、日常の運営に関しては幹事会で審議しています。1期2年任期の代表幹事に関しても、ここで投票を行って候補者を決め、最終的に評議員会で承認を行っています。幹事会の下に代表幹事と4つの常置委員会委員長で構成される幹事会運営委員会と各部局同窓会の責任幹事からなる責任幹事連絡会があります。責任幹事連絡会は、大学支援事業の選定も行っています。これ以外に幹事会メンバーを構成員とした4つの常置委員会(事業、名簿、広報、連携)が現在動いています。

4. 設立後の10年間の活動

個々の活動については、別稿で詳しく述べられますので、ここでは大きな流れと考え方を示したいと思います。

1) 国内支部と海外支部の設立

全学同窓会が出来て直ぐの平成15年3月26日(水)に関東支部の設立を行いました。関東には、2万人以上の卒業生・修了生が在住しており、学士会館で設立総会を行い、丹羽宇一郎副会長が支部長になりました。その後、浜松を中心に活動していた遠州会を支部として認定しました。国内3番目の支部として、関西支部を設立し、笥哲男氏が支部長になりました。

全学同窓会が特に力を入れてきた海外支部の最初の支部として、2005年に韓国支部を設立しました。韓国では、既に名古屋大学の卒業生・修了生の会があり、地域ごとのまとまりもありました。平野総長(当時)にもソウルに行っていただき設立総会を開催しました。以下に、10の海外支部の設立時期を示します。また、図-3に地図も示します。



図-3 現状の海外支部の設立状況

Bangladesh支部は、ホームカミングデイにあわせて豊田講堂で開催された総会の席で、丹羽宇一郎副会長からカーン支部長に支部旗を渡していただきましたが、それ以外は全て現地に出向き、設立総会を開催して、総長から支部旗と支部認定証を渡していただきました。

支部設立時期	支部名 (設立総会場所)
2005年 5月5日	韓国 (ソウル)
10月23日	Bangladesh (名古屋大学豊田講堂)
11月11日	上海 (上海)
12月14日	タイ (バンコク)
2007年 5月21日	北京 (北京)
9月7日	ベトナム (ハノイ)
2008年 9月5日	カンボジア (プノンペン)
2009年 9月3日	モンゴル (ウランバートル)
2010年 3月11日	ウズベキスタン (タシケント)
2011年 7月9日	台湾 (台北)

海外支部は、名古屋大学を卒業・修了し故国に戻られた留学生が中心となって運営し、支部長もその中から選ばれ、駐在している日本人の卒業生・修了生は、支部のサポート役を担っていただいています。大学の国際化に貢献できる海外支部を目指しています。

設立後直ぐのホームカミングデイには、その支部長を招待していますが、平成22年度には、海外全支部長をご招待し、ホームカミングデイの企画行事に参加いただきました。そして、平成24年度は全学同窓会設立10周年を記念して、また全ての海外支部の支部長を招待してお祝いをする予定です。

2) 大学支援事業

大学支援事業として、名古屋大学が法人化された平成16年度から、公募型の事業支援を始めました。①学生活動支援、②就職支援、③本部・部局活動支援、④その他に分類し、年2回の学内公募をして、これまで57件、21,714,400円を支援しました。また、同時期に卒業生などを講師に招聘した寄付講義「キャリア形成論」を開講し、通年開講(最初の2年間は半年開講)をして、好評を得ています。

3) 名古屋大学カードの発行

2年間の準備期間を経て、平成19年2月から、財政基盤整備を主な目的とした名古屋大学カード(同窓会カード)の発行を開始しました。図-4に示す豊田講堂のレリーフの付いたヤングゴールドカードで、年会費は永年無料です。国内・海外旅行保険やポイントなどは、全て個人に付きませんが、売上げの一定割合が同窓会の収入になります。現在、約9,000名の加入があり、年間約700万円の収入を大学支援に当てています。今後、重要な大学支援の財源になりつつあります。

今回の全学同窓会設立10周年記念で、カード会員が1万人となることを目標にしています。この名古屋大学カードを使うだけで、大学とのつながりが意識でき、かつ、大学支援になりますので、是非ともこの機会にご入会ください。Webでスピード入会もできます。

<http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>



図-4 名古屋大学カード

4) 情報発信

大学と協力して、平成16年度から「大学と全学同窓会からのお知らせとお願い」を全卒業生・修了生に毎年1回お送りしています。大学や全学同窓会の活動を報告するとともに、ホームカミングデイへの招待や名古屋大学基金へのお願いなどを行っています。なお、豊田会長の要請により、同窓会への寄付についてはバラバラにお願いするのではなく、この中で統一してお願いして、指定された部局同窓会や全学同窓会に配分するようにしています。

また、全学同窓会はNewsletterを年2回発行して、支援会費をいただいた方やホームカミングデイ、卒業式において配布しています。全学同窓会

のホームページは日本語版だけでなく、英語版も作成して、最新情報を掲げています。図-5に現在のトップページを示します。



図-5 全学同窓会ホームページのトップページ

5) ホームカミングデイ

ホームカミングデイは、大学主催行事ですが、全学同窓会からも大学に実施を要請し、法人化後の翌年の平成17年度から継続的に実施され、毎年4000人前後の人達が参加しています。名古屋大学のホームカミングデイは、もちろん、卒業生・修了生がメインの対象者ですが、現役学生の保護者や大学周辺の市民をも対象としています。このホームカミングデイは、今年で8回目となり、かなり定着してきており、豊田講堂での名古屋フィルハーモニー交響楽団の演奏は特に人気があります。全学同窓会の総会をホームカミングデイの中で実施したこともあります。最近では、「名古屋大学の集い」を豊田講堂で行い、卒業・修了後10年ごとの周年記念の方々には特別な配慮も行なわれています。私は平成20年度からホームカミングデイのディレクターを担当しており、全学同窓会とのつながりも行っています。

図-6 (a)、(b)に第7回ホームカミングデイ (H23)の案内看板及びパンフレット (H24)を示します。また、図-7 (a)、(b)に、ホームカミングデイ (H22)の名古屋大学の集いにおける豊田会長の挨拶時の写真と、海外支部長の紹介時の写真を示します。



図-6 (a) ホームカミングデイの案内看板 (H23)



図-6 (b) 第8回パンフ表紙 (H24)



図-7 (a) ホームカミングデイでの豊田会長の挨拶 (H22)



図-7 (b) ホームカミングデイでの名古屋大学の集い (H22)

6) その他

全学同窓会は、講演会や各種事業への後援などの活動も行っています。また、卒業式と入学式には、会長や副会長が来賓として出席し祝辞を述べています。大学の経営協議会などのメンバーとして、全学同窓会の副会長などが参画し活躍していることは、まさに、全学同窓会の設立によってできた人材バンクによるものと言えます。

5. 全学同窓会の今後の課題

名古屋大学全学同窓会設立後からずっと課題になっているのは、まず財政基盤の確立です。大学支援や社会貢献事業を拡大するためには、財政基盤の整備が重要ですが、全学同窓会の財政基盤は、当初、支援会費（任意で支払っていただく会費：年一口5000円）と寄付金を原資としていました。その後、大学支援の資金を捻出するため、前述した同窓会カード（名古屋大学カード）事業を平成19年から始め、経年的にその収入を増加させ、大学支援の貴重な財源となっています。しかし、全学同窓会の運営費などに充てている支援会員の数は毎年減少しており、今後の大きな課題となっています。常置委員会として、財務委員会を置いたこともありましたが、ほとんど機能せず、この役割を幹事会運営委員会に移して、カー

ド事業を始めました。今後は、人材が得られれば、再度、財務や企画の委員会を組織する必要があるかもしれません。

2つめの課題は、全学同窓会の活動を直接支援いただける会員の確保と組織化です。国内支部においても、熱心に活動いただける会員もいますが、高齢化がすすんでおり、若手の会員の理解と活動が全学同窓会には重要と思います。部局同窓会でもそうですが、若手の会員は同窓会活動をして何のメリットがあるかということをまず聞きます。それに対しては、参画するなかで、提案型で見つけ出してほしいと回答しています。存在感のある全学同窓会になるために、さらなる人的ネットワークの強化が必要だと思っています。

設立から10年がたって、名古屋大学全学同窓会は、課題が山積していますが、後ろを振り返ると、少しは足跡を残し、当初考えた設立の理念に沿って進んでいるのではないかと思います。

今後とも、建設的なご批判と物心両面でのご支援をお願いいたします。

参考文献

- 1) 伊藤義人：全学同窓会の設立－名古屋大学全学同窓会 NUAL－、学士会報、No.838、pp.180～183、2003年

全学同窓会支部設立とその後のあゆみ

全学同窓会の10年の歴史における大きな発展のひとつは、国内外の各支部の設立です。国内では、平成15年に関東支部、平成18年に関西支部と遠州会が各地区の多くの卒業生の支援のもとに設立されました。海外では、平成17年に設立された韓国支部をはじめ、バングラデシュ、上海、タイ、北京、ベトナム、カンボジア、モンゴル、ウズベキスタン、台湾の全10の海外支部が、アジアを中心とする国々で活躍する多くの卒業生の支援により設立され、名古屋大学の国際交流の拠点として活動しています。

総長からの支部旗と認定証の授与など、記念すべき立ち上げの場となった総会の様子を中心に、支部設立のあゆみをこれまでの出来事とともにまとめました。

(この記事は、NUAL 掲載の支部設立および行事に関連する記事を広報委員会で編集し、まとめたものです。文中の役職等は、当時のまま掲載しています。)

国内支部

■ 関東支部

平成15年3月26日(水)、学士会館において全学同窓会関東支部設立総会が開催されました。出席者は松尾総長、井口学士会常務理事、名大教職員はじめ約200名となりました。設立総会では、関東支部長に伊藤忠商事丹羽宇一郎社長、事務局長に新和企業片岡顧問が選出されました。その後、松尾総長による講演があり、続いて、懇親会が開催されました。

以降、定期的に幹事会を開き、同窓会と大学の連携、特に産学連携について議論を重ねながら、具体的な活動に結び付けています。平成17年1月27日(木)には、一橋記念講堂(学術総合センター)及び如水会館において開催された名古屋大学東京フォーラム2005に合わせて、関東支部総会が学士会館(東京都千代田区)において会員約200名の参加

を得て開催されました。平成18年1月24日(火)にも、名古屋大学東京フォーラム2006の開催に合わせて、同場所において同窓生160名の参加のもと総会が開催されました。

また、平成22年1月14日(木)、学士会館において、名大全学同窓会関東支部新年交流会と名大創立70周年(創基138年)記念特別展示会「医学教育の曙からノーベル賞まで」が開催されました。新年交流会は、丹羽宇一郎支部長の挨拶にはじまり、濱口道成総長から「濱口プラン」に基づきこれからの名大の姿を、真のユニバーシティを目指す力強い挨拶がありました。ノーベル賞の小林誠特別教授からは、学生時代の様子から、ノーベル賞受賞に至る世界最先端の研究をされた熱気あるお話をいただきました。



平成15年設立総会(会場をうめる全学同窓会関東支部会員)



平成24年新年交流会(丹羽支部長の挨拶)

■ 遠州会

名古屋大学遠州会は、静岡県西部の名大同窓会として平成8年に発足し、平成16年10月17日(日)に、名古屋大学全学同窓会の支部として認定されました。現在、会員は約500名で、隔年に総会、毎年1回、講演会または音楽会と懇親会を開催し、会報を出版しています。

遠州会の総会や懇親会等の行事は毎年6月頃に開催されており、最近では、名大遠州会と名大全学同窓会との共催による名大特別教授益川敏英先生の

「現代社会と科学」と題した講演会が平成23年6月11日(土)に浜松市内会場で開催されました。遠州会会員・同窓生・家族、招待者、高校生、一般公募市民合わせて320名を超える出席者が益川先生の講演を傾聴しました。講演会の後、オークラホテル浜松に移動し、第16回遠州会同窓会を開催しました。来賓として濱口総長、益川先生、伊藤代表幹事をお迎えし、会員100余名が出席しました。



平成21年同窓会 (女性会員も増えてきました)



平成23年講演会懇親会

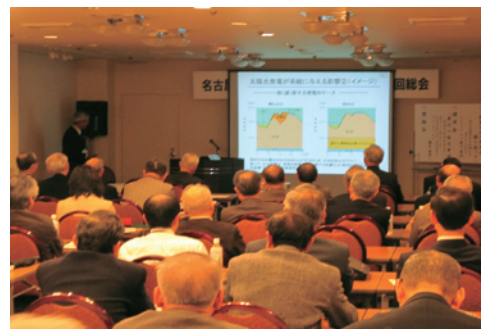
■ 関西支部

関西支部設立総会は、平成16年11月17日(水)の名古屋大学関西フォーラムに合わせ、大阪国際交流センターにおいて開催されました。会員約140名が参加しました。設立総会では、太田和宏全学同窓会副会長の挨拶と、平野総長から全学同窓会の活動に関する謝意が述べられました。次いで、伊藤代表幹事から、全学同窓会の活動とこれまでの経過報告が行われ、笈哲男氏が関西支部長として推薦されていることが紹介されました。続いて、笈支部長をはじめとする関西支部役員が承認され、総会を終えました。総会終了後は、関西フォーラムとの合同の懇親会が行われました。

関西支部総会は、毎年12月もしくは1月に開催されています。最近では、平成24年1月21日(土)、三井ガーデンホテル大阪淀屋橋において、第7回総会が開催されました。当日は60名を超える出席者があり、笈関西支部長の開会挨拶のあと、伊藤代表幹事から、昨年7月の台湾支部や全学同窓会の最近の動き等について報告がありました。また、濱口総長から、「創基140周年を振り返って～我々は勇気ある知識人を育てているか?～」と題した講演や、関西二葉会会長(関電プラント(株)社長)の藤井眞澄氏から「最近の電力事情～関西の状況を交えて～」と題した講演がありました。



設立総会



第7回総会 (熱心に講演を聴く参加者たち)

海外支部

■ 韓国支部

平成17年5月5日（木）に韓国ソウル市内のアマガホテルにて、名古屋大学全学同窓会の韓国支部が設立されました。韓国内の名古屋大学の留学生などで組織されていた4つの同窓会支所の会長や役員を中心に、韓国全土から約30人の参加がありました。卒業生の多くが大学の先生になっておられました。

設立総会では、平野総長の挨拶に続き、支部長の尹炳虎先生（江原大大学教授）から、今後は年に1回は総会を開き、同窓会活動を活発化させるとの報告と挨拶がありました。



設立総会での記念写真

平成20年12月に、王成宇先生（白石大教授）が支部長に就任されました。平成21年7月28日（火）には、濱口総長が韓国・成均館大学での学术交流協定締結記念式典及び名誉博士学位記授与式に出席することに伴い、ソウル市内の新羅ホテルにて、王支部長他と濱口総長との懇談会が開催されました。また、韓国支部から、東日本大震災で被災した名古屋大学学生等への支援を目的とした寄付がありました。寄付金は、平成23年6月28日（火）に本学を訪問された王支部長から、濱口総長に直接手渡されました。



寄付金を濱口総長に手渡す王支部長

■ バングラデシュ支部

平成17年10月23日（日）に開催された名古屋大学全学同窓会総会において、バングラデシュの同窓会が全学同窓会の海外支部として認定されました。当日は、バングラデシュより支部長の Md. Sayeedul Islam Khan 氏（GRAM BANGLA Sangstha 代表）をお招きし、丹羽副会長より認定証と支部旗の授与が行われました。総会に続いて行われた懇親会では、Khan 氏よりあいさつをいただきました。



設立総会（支部旗の授与）

■ 上海名古屋大学同窓会（上海支部）

上海名古屋大学同窓会（上海支部）の設立総会が、平成17年11月11日（金）午後6時から上海花園飯店において開催されました。設立総会には、平野総長、山本理事、伊藤代表幹事や上海在住の同窓生など約30名が出席しました。初めに平野総長から挨拶がありました。その後伊藤代表幹事から上海

支部設立までの経緯等の報告が行われ、同支部長の唐駿シャンダ・ネットワークング CEO から挨拶がありました。

上海支部では、名古屋大学上海事務所を活動の拠点として、中国における同窓生のネットワークを拡げていくことにしています。平成19年11月11日（日）に

上海支部同窓会が、平成21年5月31日（日）に上海支部懇談会、平成21年12月17日（木）には上海交通大学等を表敬訪問中の濱口総長も同席して同窓会が開催されました。最近では、平成22年10月21日（木）、上海のホテル日航で上海支部設立5周年記

念総会が行われ、豊田会長の名代として、太田顧問が出席されました。前日まで上海交通大学でAC21の総会が行われており、それに参加された濱口総長や名大関係者の方々もこれに参加いただきました。



設立総会（支部旗の授与）



5周年記念イベントでの記念写真

■ タイ国支部

タイ国支部設立総会は、平成17年12月14日（水）、バンコク市内のラマ・ガーデンズホテルにおいて開催されました。タイ在住の同窓生をはじめ、寛哲男全学同窓会関西支部長や竹本敏之在タイ日本国大使館一等書記官など約40名の同窓生が集い、支部設立を祝いました。当日は、平野総長及び伊藤代表幹事の挨拶、Neungpanich Sinchaisri 支部長をはじめとする支部役員の選任等が行われました。また、懇親会では、タイにおける同窓会活動に尽力してきた齋藤

哲夫名誉教授の挨拶がありました。

残念ながら、Sinchaisri 支部長は、平成21年2月21日に逝去され、後任の支部長に、Apinun Suprasert 先生（カセサート大学教授・獣医学部長）が就任されました。

タイ国支部では、これまでに、平成19年7月4日（水）、平成20年1月21日（月）、平成24年7月19日（木）に交流会を開催しました。



設立総会での記念写真



総長と Suprasert 支部長

■ 北京名古屋大学同窓会（北京支部）

平成19年5月21日（月）に北京市内の燕山大酒店で、北京名古屋大学同窓会（北京支部）の設立総会と懇親会が開催されました。大学側からは平野総長はじめ5名の方へ出席いただき、全学同窓会からは、伊藤代表幹事と中野連携委員会委員長が出

席しました。北京支部の設立に向け整備した名簿では、名古屋大学留学経験者等は、北京周辺に90名近くおられ、当日の参加者は50名を超えました。

設立総会は、事務局長の馬智亮先生（清華大学教授）の司会で行われ、潘偉会長（清華大学教授）、

平野総長の挨拶がありました。設立総会後の懇親会では、伊藤代表幹事から豊田会長の祝辞が伝えられ、上海支部の唐支部長からの祝辞が中国語で披露されました。

平成21年9月23日（木）には、北京市内の全聚徳北京ダック清華大学東門店で、潘北京支部長他と濱口総長との懇談会が行われました。これは、濱口



設立総会での記念写真

総長がアジア研究教育拠点事業「低炭素経済の取組および国際連携」国際会議に出席するため北京市を訪問したことに伴い開催されたものです。また、平成23年1月21日（金）に、北京市清華大学近くの宴銘園において、北京支部と濱口総長との懇談会が開催されました。



平成21年懇談会

■ ベトナム支部

平成19年9月7日（金）にハノイ市内の Daewoo ホテルで、名古屋大学全学同窓会ベトナム支部の設立総会が開催されました。これは、ハノイ法科大学に設立された名古屋大学日本法教育研究センターの開所式に合わせて行ったものです。

設立総会には、多くのベトナム人の名古屋大学卒業生・修了生だけでなく、日本人の現地駐在員の方々にも参加いただきました。大学側からは平野総長、佐分理事、松浦法学研究科長はじめセンター開所式関係者に出席いただき、全学同窓会からは、伊藤代表幹事と中野連携委員会委員長が参加しました。設立に向け整備した名簿では、60名近くのベトナム人留学経験者などがおられ、当日の参加者は、在ベトナムの日本人同窓生を含め70名弱となりました。

設立総会は、中野連携委員会委員長の司会で行われ、平野総長の挨拶、伊藤代表幹事から豊田会長の祝辞が伝えられ、全学同窓会の設立経緯や理

念の説明等がありました。続いてベトナム支部を代表して Le Thanh Long 氏から挨拶がありました。総会の後は日本法教育研究センターの祝賀会に合流して、楽しい交流のひとつをすごしました。

平成21年9月19日（土）には、第1回日越学長会議のために訪問中の濱口総長との懇親会が開催されました。平成24年1月5日（日）には、ベトナム支部長であるレ・タイン・ロン氏の司法副大臣就任祝賀会が開催されました。同氏は、2003年に本学大学院法学研究科博士課程で博士号を取得し帰国後、2008年から司法省国際協力局長として活躍し、これまでの実績が認められ、司法副大臣に就任しました。祝賀会には、名古屋大学から濱口総長、佐分理事、鮎京法学研究科長、成田国際開発研究科長、木村多元数理研究科長、市橋 CALE センター長等が出席し、約50名のベトナムの同窓生が集まる賑やかな会となりました。



設立総会での記念写真



ロン支部長、司法副大臣就任祝賀会
(ロン副大臣から記念品を受け取る濱口総長)

■ カンボジア支部

カンボジア支部の設立総会は、カンボジア王立法経大学に設立された名古屋大学日本法教育研究センターの開所式に合わせ、平成20年9月5日（金）にプノンペン市内のインタコンチネンタルホテルで開催されました。本学からは、平野総長、佐分理事、杉浦法学研究科長、鮎京 CALE センター長をはじめとする日本法教育研究センター開所式関係者並びに伊藤代表幹事、中野連携委員会委員長が出席し、カンボジア人の元留学生約20名を含め45名程の出席者がありました。

設立総会では、はじめに平野総長の挨拶があり、伊藤代表幹事から支部設立を豊田会長が喜ばれていること、また、名古屋大学全学同窓会の設立経緯や理念などについて説明がありました。カンボジア支部長の Hor Peng 先生からは、名古屋大学全学同窓会の理念に従って、大学や全学同窓会の情報を共有し、名古屋大学の情報発信や国際交流に貢献

したいという挨拶がありました。総会終了後には、日本法教育研究センター開所祝賀会に合流して、楽しい交流のひとつきをすごしました。

また、平成22年1月9日（土）にプノンペン市内において、濱口総長とカンボジア支部との懇談会が開催されました。濱口総長が第2回「開発のためのアジア学術ネットワーク（ANDA）」国際セミナー及び王立プノンペン大学との学術交流協定再締結に出席することに伴い開催されたものです。総会には、濱口総長はじめ、山本総長顧問、二村国際開発研究科長や ANDA セミナーに出席した本学教職員・学生約30名のほか、カンボジア在住同窓生50名、セミナーにアジア各国から参加した同窓生など合計約100名が出席し、大変盛会となりました。

平成23年6月には、Hor Peng 支部長の後任に、Meas Bora 氏（カンボジア専門大学・副学長）が就任されました。



設立総会（支部旗の授与）



濱口総長カンボジア支部を訪問

■ モンゴル支部

平成21年9月3日（木）にウランバートル市内のバヤンホテルで、名古屋大学全学同窓会のモンゴル支部の設立総会が行われました。これは、名古屋大学日本法教育研究センター（モンゴル）3周年記念行事と名古屋大学フィールドリサーチセンター開所式に合わせて行ったものです。大学側からは濱口総長、佐分理事、渡辺副総長、杉浦法学研究科長はじめ両センターと医学部の関係者に出席頂き、全学同窓会からは、伊藤代表幹事と中野連携委員会委員長が参加しました。設立に向け整備した名簿では、モンゴル人の留学経験者など70名近くの同窓生がおられ、当日の参加者は、名古屋大学からの参加者を含め60名弱となりました。支部長には、元保健省事務次官で現在同省のプロジェクトマネージャーの Dr. Altantuya Jigjidsuren が就任されました。



設立総会（支部旗の授与）

設立総会は、中野連携委員会委員長の司会で行われ、濱口総長からは、今後、モンゴル支部が卒業生・修了生の精神的な支えになってほしいとの要請がありました。続いて伊藤代表幹事から、豊田会長の祝辞、全学同窓会の設立経緯や理念が説明され、今後、名古屋大学の国際交流の拠点になることへのお願いがありました。

支部長の Altantuya 氏の挨拶では、支部長選出方法なども含めた支部規約をつくり、継続的な活動をするともに、資金を集めて留学生を名古屋大学に送るような事業の必要性等が話されました。設立総会終了後は、大学主催の祝賀会に支部旗を持って合流し、楽しい交流のひとつきをすごしました。

また、平成22年10月2日（土）には、濱口総長とモンゴル支部との懇談会が開催されました。



設立総会での記念写真

■ ウズベキスタン支部

平成22年3月11日（木）にタシケント市内の国際ビジネスセンターで、名古屋大学全学同窓会の9番目の海外支部となったウズベキスタン支部の設立総会が開催されました。これは、グローバル30関連の名古屋大学ウズベキスタン事務所（国際ビジネスセンター）開所式に合わせて行ったものです。60名を越える名古屋大学卒業生・修了生がウズベキスタンにいますが、大学側からは濱口総長、佐分理事、渡辺副総長、杉浦法学研究科長他に出席いただき、全学同窓会からは、伊藤代表幹事と中野連携委員会委員長が参加しました。設立に向け整備した名簿では、ウズベキスタン人の名古屋大学への留学経験者は60名以上おられ、当日の参加者は、10数名のウズベキスタン人の

留学経験者と名古屋大学からの参加者で50名程度となりました。支部長は、法学研究科出身者で、ウズベキスタン中央銀行部長の Bakhodir Merganov 氏がなられました。

設立総会は、中野連携委員会委員長の司会で行われ、濱口総長の挨拶に続き、伊藤代表幹事から豊田会長の祝辞が伝えられました。支部長の Merganov 氏から、今後、名古屋大学及び名古屋大学全学同窓会に協力したいという挨拶がありました。総会終了後に、総長を中心として卒業生・修了生が、支部旗を入れて記念撮影をしました。その後、大学主催の事務所開設の祝賀会に支部旗を持って合流し、楽しい交流のひとつきをすごしました。



設立総会（支部旗の授与）



設立総会での記念写真

■ 台湾支部

平成23年7月9日(土)に台北駅前のシーザーパークホテルで、名古屋大学全学同窓会の記念すべき10番目の海外支部となった台湾支部の設立総会が開催されました。100名を越える名古屋大学卒業生・修了生が台湾にいますが、当日の参加者数は43人でした。大学側からは濱口総長、鮎京法学研究科長はじめ6名にご出席いただき、全学同窓会からは、伊藤代表幹事と中野連携委員会委員長が参加しました。

設立総会では、まず同窓会関係者だけで支部規程制定の議論が行われました。富田哲先生（淡江大学外語学院）の司会で、支部名称を「台湾名古屋大学同窓会」とすること、支部を台北駅前の王富民氏（後に幹事長に指名）の特許事務所に置くことが決められました。また、会長（支部長）として、簡玉聰先生（高雄大学准教授）が選ばれ、3名の監

事も選任されました。

続いての記念式典では、濱口総長が最初に挨拶され、10番目の記念すべき海外支部であり、今後の留学生受け入れに協力を依頼されるとともに、名古屋大学の近況についても触られました。次に、伊藤代表幹事から、豊田会長の祝電が披露されました。最後に簡支部長から、これまでの経緯と、名古屋大学にお世話になったお礼に、大学を支援したい旨などの立派な挨拶がありました。式典の後で参加者全員の記念撮影が行われました。

その後の懇親会では、簡支部長から幹事長として王富民氏、ほか6名の幹事の指名がありました。最後に、このために参加いただいた鮎京法学研究科長の挨拶などがあり盛会の内に懇親会は終了しました。



設立総会（簡支部長の挨拶）



設立総会での記念写真

寄付講義

全学教養科目『キャリア形成論』について

名古屋大学 社会貢献人材育成本部
特任教授

河野 廉

名古屋大学全学同窓会設立10周年おめでとうございます。

名古屋大学全学同窓会からご支援いただきました全学教養科目「キャリア形成論」は平成16年度前期から開講し、平成17年度前期（後期については、教養教育院事業として実施）、平成18年以降今年の平成24年度まで、毎年、全学2年生以上を対象に前後期（各2単位）開講させていただいております。

本「キャリア形成論」は、“キャリア”を職業生活に限らず、人生を構成する一連の全ての出来事と捉え、講師の方々の生き方や考え方に触れ、それらを糸口にして、受講生が自らのキャリアを考える機会と捉えています。

具体的には、一学期（全14～15回）のうち、初回と最終回を講義担当責任者が担当します。残り12～13講義については、産業界・教育界・行政サービス・ベンチャービジネスなど、様々な分野で活躍されている名古屋大学卒業生等を講師として招聘しております。講師からは、自らのキャリア、歴史、考え方について話をさせていただき、人生の選択に関する考えについてご教授いただくと共に、多彩な職業についてご紹介いただきます。講義は、単に90分の講義を行うだけでなく、事前に講師に聞きたい質問を学生から募り、講義に反映していただいています。さらに、講義を受けた学生の所見、感想、質問等を、講義後、講師にお渡しし、来年度以降の講義に参考させていただくと共に、質問に対する回答を学生にフィードバックしていきます。学生も講師も、講義を大事にさせていただくと共に、その後もキャリアについて考える機会を作るようにしています。

受講者数は平成20年度までは、年間250～300名、平成21年度以降は年間約350名、今期（平成24年度前期）は半期で260名と年々増加し、当講義に対する学生の関心は年々高まっています。以下のように、社会で活躍している方々からの講義は、学生達にとって新鮮であり、多くの受講生がポジティブに捉えています。

・「様々な人たちのお話が聞けて、しかも全員の方が真剣に私たちのために、将来のことや仕事のこと、自分の人生のことについて話して下さい、すごくためになりました。将来自分が働き出したときに、また思い出したいと思います。」

・「私は法学部であるため、初めは自分とは関係の無い理系の職業については関係の無いもので、全く興味も無いと思っていた。しかし、理系の職業であっても、文系の職業であっても、どの職業であっても必要な不偏的な能力の存在、また、大学生活でやっておいた方がよいことを、『キャリア形成論』の講義で聞けて、これからの大学生活の刺激になった。」

・「卒業後は、自分もみんなに希望を与えることのできるような“講師”としてこの場に立ちたいです。」

現在までに、「キャリア形成論」で、ご講義をいただきました熱意ある講師の方々に感謝申し上げますとともに、今後も全学同窓会よりご支援賜りますようお願い申し上げます。



中部日本放送株式会社アナウンサー 丹野みどり講師



「キャリア形成論」講義風景

全学同窓会寄付講義 キャリア形成論

全学同窓会では、キャリア形成論と題した寄付講義を、平成16年度から全学の学部生に向けた全学教養科目の1つとして開講しています。社会の第一線で活躍するOB・OGから、人生哲学、職業意識、経済・社会の動向を伝授いただき、学生の職業観・キャリア意識を醸成し、向学心を高めることを目的としています。各回、様々な分野で活躍する卒業生等を講師として招き、様々な視点で講義を行っています。

平成24年度前期講義スケジュール

	講義題目	講演者所属	講演者氏名
第1回 4月17日	オリエンテーション 自らの人生は自ら決定する ～キャリア形成の必要性～	名古屋大学 社会貢献人材育成本部 特任教授	かわの やすし 河野 廉
	自分らしい未来のために	名古屋大学 学生相談総合センター 就職相談部門 キャリアカウンセラー	ふなつ しずよ 船津 静代
第2回 4月24日	サッカー選手、物理学生、電通マン、 写真家… 何がくるしうてこうなったのか?	写真家	おぎの なおゆき 荻野 NAO之
第3回 5月1日	21世紀を切り拓く人 ～自動車産業から見た脱ガラパゴス	株式会社デンソー 半導体先行開発部 部長	いしはら ひであき 石原 秀昭
第4回 5月8日	社会で働くということ	東海旅客鉄道株式会社 営業本部エクスプレス推進部 企画・販促グループ グループリーダー	みっかいち たつろう 三日市 達朗
第5回 5月15日	憧れだった仕事に就いて17年、今思う事	中部日本放送株式会社 アナウンサー 報道・制作センター アナウンス部 課長代理	たんの みどり 丹野 みどり
第6回 5月22日	教師という世界 ～無限の箱～	愛知県立旭丘高等学校 教諭	わたなべ よしなが 渡辺 喜長
第7回 5月29日	青年よ大志を抱け!	セレンディップ・コンサルティング 株式会社 最高顧問 元 株式会社ポッカコーポレーション 名誉会長 名古屋向研会 幹事	ないとう よしはる 内藤 由治
第8回 6月5日	仕事は楽しんでこそ良い仕事ができる	京都府立大学公共政策学部 教授	あおやま こうぞう 青山 公三
第9回 6月12日	グローバル企業に働いて思うこと (私のキャリア形成論)	トヨタ輸送株式会社 常務取締役	おおぐろ てるお 大黒 輝夫
第10回 6月19日	「趣味・川歩き」がNHKを変える!!	日本放送協会 科学・環境番組部専任ディレクター	きたおり はじめ 北折 一
第11回 6月26日	ベンチャー、世界に挑戦	株式会社TRINC 代表取締役	たかやなぎ まこと 高柳 真
第12回 7月3日	自動車レースへの情熱と現実 ～自己実現とリスク管理～	株式会社童夢 開発統括部 プロジェクトマネージャー	ゆち ひろし 湯地 浩志
第13回 7月10日	「事務職員」は使えない	名古屋大学 総務部 総務課 掛長	かとう のぶゆき 加藤 史征
第14回 7月17日	総括:キャリア形成の必要性	講義責任者	たけだ ゆたか 武田 穰

支援事業

全学同窓会では、名古屋大学の学生活動、就職支援事業、本部・部局行事などへの支援を目的として、平成16年度より、公募型の大学支援事業を開始しております。これまでに57件の事業を支援しており、このうち6件の事業について、その後の様子をお寄せいただきました。

在学生就職支援セミナーの開催(平成23年度)

二葉会(工学部・工学研究科電気系同窓会)

松村 年郎

名古屋大学工学部・工学研究科電気系教室の同窓生の集まりとして、二葉会があります。二葉会の名称の由来は、昭和15年に開設された理工学部の校舎が東区西二葉町にあったことに由来します。現在、西二葉町の地名は無く、名古屋城と共に消失した大学の跡地には、白壁2丁目として県立明和高校があります。二葉会事業として同窓生への情報発信、会員の懇親の場の提供を行ってきました。その中で隔年1月4日に、名鉄グランドホテルにおいて新年合同同窓会を催してきました。平成24年はその年に当たりません。50周年記念の年から在学生に対しても同窓会活動を活用してもらい、若い会員の同窓会離れを食い止めようとして会社説明会の場を提供してきました。しかしながら、昨今名古屋大学生とはいえ面接などで苦むことがままあるので、支援事業として面接講習会を企画することにいたしました。せっかくの機会でもあり、全学同窓会大学支援事業に応募すると共に他学部・他学科の学生に対しても利用できるよという企画をいたしました。幸いにして援助がいただけたこともあり、参加人数枠を各回100名として各部局同窓会にも連絡いたしました。残念ながら、他からの参加者はありませんでした。電気系からの参加者は各回30名程度でありました。最初に常識的な作法などを説明していただきました。その後各回の講師が、インフラ(電力)系、トヨタ系、電機系の特徴を、自社例を引用しながら説明していただきました。これらの講師はそれぞれの会社で実際に面接を担当している方であり、二葉会としても会長、副会長(共に会社役員)自ら直接担当していただきました。最後は出席者から



OBからの説明を聴く参加者



模擬面接

ピックアップして模擬面接を行い、役員面接などの経験者からその問題点を具体的に指摘していただきました。余談として、最近では人事面接をクリアできない人がいるので、油断せずに注意してほしいとアドバイスがありました。

学生の就職に対する感覚は、準備不足だったりする一方で、的外れな面接の準備などを行っていることがままあります。先輩後輩という繋がりによって、会社の雰囲気や経験などを直接伝える機会を作ることは非常に重要であり、同窓会活動の発展にも大いに寄与するものと考えられます。今後また支援が得られることがあれば、名古屋大学全体の学生に対してプラスになるように支援を活用していきたいと考えます。

学生の多文化理解能力を高めるための チューターハンドブック・プロジェクト(平成21年度)

国際交流協力推進本部
特任講師
渡部 留美

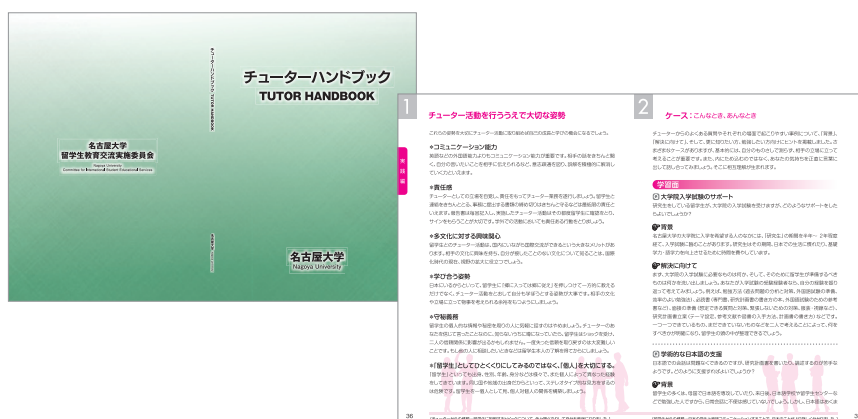
本事業は、平成21年度（前期）に採択いただき、名古屋大学の留学生のチューター向けハンドブックを作成、発行しました。本ハンドブックは、チューター制度がよりよく活用されることを目指し、「1. 名古屋大学の留学生」、「2. チューター活動を行ううえで大切な姿勢」、「3. ケース」、「4. 関係組織連絡先」、「5. 参考図書」、「6. 用語集」、「多文化理解力チェック」から成ります。「3. ケース」では、これまでチューターや留学生から寄せられた質問や意見、学内の留学生担当教員からのアドバイスをもとに、事例（学習面、生活面、コミュニケーション面）を作成し、ケースとなった背景、解決に向けたヒントを掲載しました。冊子の形式はA5判、全24ページで、1000部発行しました。既に作成されていた『名古屋大学チューターマニュアル』（制度と事務手続きの説明を掲載）と合わせ、チューターへのオリエンテーション時に活用できるようになりました。発行後、多くの部局から「うちの部局でも配布したい」という依頼があり、半年で残部は200ほどになりました。

平成23年度、留学生教育交流実施委員会のワーキンググループにおいて『チューターマニュアル』と『チューターハンドブック』を部分的に改訂し、一つにまとめた冊子を作成することになりました。私もワー

キングメンバーとして関わり、平成24年3月に新たに生まれ変わった『チューターハンドブック』が発行されました。

名古屋大学は、2020年までに外国人留学生の受け入れを3,000名にする目標を掲げています。今後キャンパスには益々多くの留学生、彼らをサポートするチューターを見ることができるようでしょう。彼らはチューター活動をとおして、コミュニケーション能力や国際的な視野を身につけ、卒業/修了後は同窓生として、グローバルに活躍する人材となっていきます。本ハンドブックが、名古屋大学の国際化環境の整備や人材育成に少しでも貢献できればと思います。

名古屋大学全学同窓会は、幅広い事業に対し、学生、教職員分け隔てなく支援を行っている点がユニークだと思います。このような支援事業は、実質的な支援だけでなく、名古屋大学への愛校心の涵養や同窓会理解の促進につながると考えます。今後の全学同窓会の益々のご発展と支援事業の継続を切に願っています。最後になりましたが、名古屋大学全学同窓会設立10周年のお祝いを申し上げますと共に、本事業について支援いただきましたことに再度感謝申し上げます。



チューターハンドブック

こすもす保育園における子ども図書コーナーの設置とお話会の開催補助(平成20年度)

こすもす保育園運営協議会

永田 雅子

こすもす保育園は男女共同参画推進の一環として学内に設置された事業所内保育園です。全国に先駆けて設置された大学内保育所として、子どもたちとその保護者、そして大学の構成員の一人一人の理解と協力を得て、少しずつ歩みをすすめ、現在では60名の子どもたちの元気な声が園庭に響き渡るようになってきました。開園当初は、小さな赤ちゃんだった子どもたちも成長し、一人二人とこすもす保育園を巣立っていっています。卒園し小学生になった子どもたちを含め、在園の子どもたちも大好きな場所の一つが、平成18年4月の開園にあわせるように同窓会からの贈り物としていただいた園庭のログハウスです。このログハウスには「全学同窓会・NUAL」と書いたプレートが取り付けられ、同窓生の皆様に見守られる形で子どもたちが日々過ごしています。子どもたちにとって隠れ家だったり、ごっこ遊びの小さなお家だったり、いろいろな使い方で、毎日のように出入りしている大事な居場所です。在園する子どもたちが大きくなり、ログハウスの入り口で頭を打たないような安全策も同窓会

の支援を受けて、改修させていただきました。また同時に平成20年には子どもたちの憩いの場として、図書コーナーも同窓会の支援を受けて整備することができました。子どもたちにとって絵本は、世界を広げ、豊かな想像力を育む大事なパートナーです。いただいた資金で、世界の良書や地球儀などをたくさんそろえることができ、子どもたちのすぐ手の届くところに設置させていただきました。日々の生活の中で、絵本を広げ、みんなでその絵本を覗き込んでいる姿は、微笑ましくもあり、その姿に、保育園関係者一同、温かい気持ちにさせてもらう瞬間でもあります。こうして全学同窓会の支援をうけながら、こすもす保育園は日々子どもたちとともに歩んでいます。これからも大学内にある保育所として、同窓会からの温かい見守りをうけてよりよい子どもたちの居場所づくりをおこなっていくとともに、本学の構成員が子育てとともに教育・研究活動に従事できる場として機能していけるよう努力していきたいと考えています。



園庭ログハウス(上)と
その中で遊ぶ子どもたち(右)



図書コーナーで絵本を読む子どもたち

名大航空部所有グライダー「Discus b(JA97ND)」の再塗装費用の支援(平成19年度)

名古屋大学 航空部 主将

延山 龍介

名古屋大学航空部の主な活動は上空1500m以上の世界を飛ぶこと、またそこで飛ぶために様々な準備を行うことです。現在部員は23名で日々にぎやかに活動しています。

同窓会支援事業にて2007年度に再塗装の支援をして頂いたディスクスについて紹介します。当機体は1997年に競技用の単座機として導入され、七大戦や全国大会では優秀な成績を残しています。競技会だけでなく普段の訓練においても部員にも人気であり、またこの機体に乗ることを目標としている者も多くいます。

再塗装後のディスクスですが、4年経過した現在も再塗装後から変わらず翼に自分の姿が写るほどきれいな状態です。また2011年3月に行われた全国大会では2回目の団体優勝を勝ち取ることができました。これは選手が一丸となって熱心に大会に取り組んだ結果であり、また再塗装による飛行性能の向上もその一因だと思います。今後もこのディスクスで七大戦連覇や全国大会優勝を目指し、日々訓練に励んでいきます。

さて、グライダーで空を飛ぶ楽しみについて少しお

話したいと思います。グライダーとは動力を持たず、文字通り空を滑るように飛ぶ航空機です。動力を持たないため自分自身では高度を上げることができません。そこでグライダーは上昇気流を捕まえて高度を上げていきます。上昇気流に上手く乗れば上空1500m以上の世界に簡単に行くことができ、また長時間空を飛び続けることができます。しかし上昇気流は目に見えないため、捕まえるのは実に難しく奥の深いところです。上昇気流がどこにあるかを常に予想して探しに行くことや、限られた高度で安全にそして効率よく探しに行くことを常に考えながら機体を操縦し空を飛ぶ、ということがグライダーの楽しみだと思います。実際に飛んでみて、あると予想した場所に上昇気流がなかったり、予想とは少し違う場所にあったりと自分の立てた予想と外れることが多くあります。なぜ予想が外れたのかを考え、原因を探っていくこともグライダーのパイロットには必要なことなのです。この文章で航空部の活動及びグライダーについて少しでもご理解いただければ幸いです。今後とも航空部へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。



2011年3月 全国大会（妻沼滑空場）にて

「勇気ある国際人」の養成(平成18年度)

地震予知総合研究振興会 東濃地震科学研究所

木股 文昭

2007年度全学同窓会支援事業として「2004年アチエ地震津波と2006年中部ジャワ地震における学生ボランティア活動の交流」を行った。津波や地震被災の現地からの報告は研究者など限られていた。その中で、実際に被災した学生の話や、地震列島の日本で聞き、その体験を共通化することが重要だった。同窓会事業がこのような交流事業発展の契機になりうると期待した。

この事業と共に、JICA 研修コース「地震津波火山観測システムの運用・管理」も始めていた。アジアなどの地震災害国から5～7名を招き、地震災害や火山噴火災害の取り組みを前進させる主旨である。研修生は昨年までに30名を超える。彼らは、成果を基礎に日本への留学、自国で博士課程の取得など着実に成長している。

翌年度に、同窓会事業を発展させる形で、ユネスコ青年交流信託基金事業「津波被災文化の継承による津波防災意識の向上」を行った。インドネシアとフィリピンから10名の学生と引率者4名を招いた。彼らと津波に関する集中講義を学び、紀伊半島の津波被災地を訪れ、日本に残る津波被災文化に触れた。もっとも、学生よりも私たちがという教員の意見に発展途上国の寂しさを感じた。

これらの成果は、2011年に若手研究者招聘事業「アジアにおける激甚地震津波災害の多国間文理連携研究基盤の形成」に引き継ぐ。インドネシアとマレーシア、ベトナムの若手研究者と院生の計20名が、3.11からまだ半年の被災地を訪れ、防災には自然科学のみならず社会科学との連携が極めて重要なことを学んだ。

これらの事業を通して芽生えたものは何だろうか。交流は常に複数の相手国だった。JICA 研修生も参加し、数カ国の人々で見学し、議論してきた。となると、もう日本との交流だけでない。考えていなかったが、参加メンバーの中に小さいながらも国際性が身近な存在になった。宗教や社会環境の違いを互いに理解した上で国際感覚が身についてきた。市民レベルの国際協力、国際連携が彼らに育っているのが、その後のメールなどを通して伝わってくる。

反省点もある。名古屋大学の学生を巻き込んだウエーブまで広がらなかったことだ。身近な外国人に刺激され、就職後に積極的に海外に飛び出す卒業生もいた。しかし、言葉の障壁から、せっかくの国際性を養う機会を自ら閉じてしまう学生が少なくなかった。そんな余裕などない状況に学生が追い込まれているのだろうか。とすると、「勇気ある国際人」の養成も黄色信号だ。



2008年ユネスコ青年交流信託基金事業で、津波訓話「稲むらの火」の広川町、モデルとなった主人公の開設した中学校を訪ねた参加者。ユネスコ事業の招聘者以外にも JICA 研修生が加わる。日本を含め7カ国と国際色豊かである。

2007年度全学同窓会支援事業で安藤雅孝さんの講義後の記念写真。インドネシアからの招聘生に、名古屋大学の留学生、JICA 研修生、バンダアチエでボランティア活動を行っている大阪外大（当時）の学生も加わる。



就職情報、社会人としての知識等を提供する中央図書館就職コーナーの整備 (平成17、18年度)

附属図書館 事務部長

加藤 信哉

名古屋大学は、学術憲章に謳われているように「自発性を重視する教育実践によって、論理的思考力と想像力に富んだ勇気ある知識人を育て」国内外の様々な分野で活躍する社会人を数多く輩出してきました。また、「人類の福祉と文化の発展ならびに世界の産業に貢献する」本学卒業生への社会の期待はますます大きくなっています。一方で、就職氷河期のなか、就職を希望する学生の多くは、自分自身にあった職業を見いだし、希望する企業に就職するための業界や企業の情報を収集し、活動していくことを余儀なくされています。

このため、附属図書館では平成17年度及び平成18年度に名古屋大学全学同窓会支援事業の助成を受け、「学生のための就職情報等に関する最新図書、視聴覚資料の整備」を開始しました。これによって、中央図書館3階に本学の学生が円滑に就職活動を行い、社会に羽ばたいていくために必要な図書資料を提供する「中央図書館就職コーナー」が設置されました。

現在、このコーナーには、職業案内や面接・ビジ

ネスマナー、キャリアデザインなど就職活動や職業人、社会人としての意識に関わる図書資料を中心に1,111冊の図書資料が配架されています。資料の収集に当たっては名古屋大学就職支援室担当教員と連携し選書を行っています。助成が終了した平成19年度以降は、毎年160冊程度の図書資料を図書館予算で追加し、更新を図っています。

本コーナーは中央図書館3階のブラウジングルームに併設されているため、図書資料のみならず、経済誌や業界誌なども閲覧しながら、最新の企業情報を収集できます。また、グリーンベルトを眺望できる眺めの良い場所にあり、厳しい就職活動に強いられ緊張している学生の心を和ませる雰囲気醸成しています。

就職コーナーの図書は通常の学生用図書と同じ条件（5冊、2週間）で貸出されていますが、学生の関心も高く、他の学習用図書に比べて毎年5倍から6倍の貸出利用があります。本コーナーは本学学生の就職活動に大きく貢献していますので、図書館としてその充実を積極的に進めたいと考えています。



中央図書館に設置された就職コーナー

名古屋大学全学同窓会大学支援事業 採択事業一覧(平成16～23年度)

◇平成23年度第2回

事業の種類	申請者	所属・職名等	事業名
その他	森 隆昌	工学研究科物質制御工学専攻 助教	学生による福島除染 ボランティア活動
就職支援	渡辺 芳人	国際交流協力推進本部長	名古屋大学におけるグローバル人材育成のためのキャリア教育支援
その他	田所 真生子	留学生センター アドバイジング・カウンセリング部門 特任准教授	グローバルリーダー育成プログラムの実施
本部・部局 行事支援	鳥橋 茂子	医学部保健学科理学療法学専攻 教授	人体解剖トレーニングセミナーの開催

◇平成23年度第1回

事業の種類	申請者	所属・職名等	事業名
就職支援	河村 守雄	医学部保健学科理学療法学専攻 教授	医学部保健学科におけるキャリア形成支援プログラムの構築と推進
本部・部局 行事支援	林 良嗣	環境学研究科都市環境学専攻 教授	「名古屋大学土木系教室五十周年記念行事」の開催
学生活動支援	鬼澤 有紀	国際開発研究科国際協力専攻博士課程前期課程1年	「International Food Festival ～東北から名大へ。名大から東北へ～」の開催
就職支援	松村 年郎	二葉会学内幹事長 工学研究科電子情報システム専攻 教授	在学生就職支援セミナーの開催

◇平成22年度第2回

事業の種類	申請者	所属・職名等	事業名
学生活動支援	鈴木 いつ花	漕艇部主務 教育学部人間発達科学科3年	「名古屋大学漕艇部創基100周年記念事業」の開催
その他	益川 敏英	素粒子宇宙起源研究機構 機構長	「坂田昌一日記・書簡刊行委員会 坂田昌一デンマーク日記1954年 出版事業」の実施
本部・部局 行事支援	野水 勉	留学生センター 教授	「名古屋大学短期留学受入れプログラム(NUPACE)設立15周年記念シンポジウムおよびNUPACE・交換留学同窓会」の開催

◇平成22年度第1回

事業の種類	申請者	所属・職名等	事業名
学生活動支援	西田 敏	工学部機械・航空学科1年	名古屋大学応援団の再生活動
学生活動支援	Mostafa Yasmine Samy	文学研究科博士課程後期課程2年	多国籍大学院生執筆の「名大版 英語による他文化体験紹介・検討集」の編集・印刷
学生活動支援	久保 亜季子	医学部保健学科看護学専攻4年 柔道部	名古屋大学柔道部「カナダ遠征」の実施
学生活動支援	島本 昌典	国際言語文化研究科国際多元文化専攻博士課程前期課程2年	「円頓寺映画祭2010」の開催
学生活動支援	原 俊亮	情報文化学部社会システム情報学科3年	「間違っていない 名大グッズ研究会」第3回展示会の開催
学生活動支援	たろかろか 大	経済学部経済学科2年 名大祭本部実行委員会 委員長	「名大祭」の開催準備および運営

◇平成21年度第2回

事業の種類	申請者	所属・職名等	事業名
その他	坂野 尚美	国際交流協力推進本部 留学生相談室 特任准教授	教職員を対象とした学生のメンタルヘルスに関する研修および冊子作成
本部・部局 行事支援	金井 雄一	経済学研究科長	「(仮称)名古屋大学経済学部創基90周年記念展」の開催
その他	高橋 誠	理事・事務局長	重要文化財馬場家住宅に関する基盤的な研究教育環境等の調査等の推進

◇平成21年度第1回

事業の種類	申請者	所属・職名等	事業名
その他	梅村 祐子	学生相談総合センター 特任助教 (専任相談員)	名古屋大学における障害を有する学生の支援体制の構築
その他	渡部 留美	国際交流協力推進本部 特任講師	学生の多文化理解能力を高めるためのチューターハンドブック・プロジェクト
学生活動支援	宿 金語	国際開発研究科 国際コミュニケーション専攻 博士課程前期課程1年	外国人留学生による母国紹介・地域交流事業
本部・部局 行事支援	杉浦 一孝	法学研究科 研究科長	名古屋大学法学部創立60周年記念国際シンポジウムの開催

◇平成20年度第2回

事業の種類	申請者	所属・職名等	事業名
就職支援	松浦 まち子	留学生相談室長	留学生に対する日本企業への就職活動支援の強化
学生活動支援	小池 遼太	名古屋大学体育会委員長 文学部3年	全国七大学総合体育大会での横断幕等作成補助
本部・部局 行事支援	速水 敏彦	教育発達科学研究科研究科長	教育学創設60周年記念行事開催補助
学生活動支援	横山 有香	第14回名古屋大学下宿用品リユース市実行委員会 法学部2年	卒業生から新入生への下宿用品のリユース、粗大ゴミ削減・環境負荷の軽減への貢献、地域への関心の喚起
学生活動支援	中村 奈央	名古屋大学フォークソング同好会情宣 教育学部2年	クリスマスコンサート開催補助

◇平成20年度第1回

事業の種類	申請者	所属・職名等	事業名
学生活動支援	小畑 直豊	名大祭本部実行委員会 理学部2年	ホームカミングデイにて来客案内ボランティアが着用する法被の作成補助
本部・部局 行事支援	野水 勉	留学生センター 教授	名古屋大学混声合唱団とコールドグラントゥエの仏ストラスブール大学での日仏交流事業イベント参加のための渡航費用補助
学生活動支援	山崎 洋和	名古屋大学混声合唱団 教育学部3年	名古屋大学混声合唱団第50回定期演奏会開催補助
その他	田中 京子	こすもす保育園運営協議会議長 留学生センター 准教授	こすもす保育園における子ども図書コーナーの設置とお話会の開催補助

◇平成19年度第2回

種類	申請者	所属・職名等	事業名
学生活動支援	高 秉津	柔道部主将 工学部2年	平成20年名古屋大学柔道部招待 高校生柔道大会の開催支援
学生活動支援	西村 健	環境学研究科博士課程前期課程1年	より良い街づくり推進のためのすごろく作りワークショップの活動支援
その他	堀江 未来	留学生センター 准教授	「グローバル人材育成ワークショップの開発・実施」の開催支援

◇平成19年度第1回

種類	申請者	所属・職名等	事業名
本部・部局 行事支援	町田 健	文学研究科長	文学部創設60周年記念集会(学術講演会、学術シンポジウム)の開催支援
学生活動支援	中村 友洋	工学部機械・航空工学科4年	名大航空部所有グライダー「Discus b(JA97ND)」の再塗装費用の支援

◇平成18年度第2回

種類	申請者	所属・職名等	事業名
学生活動支援	浅野 浩司	下宿用品リユース市実行委員会 経済学部経営学科2年	名古屋大学下宿用品リユース市への支援
学生活動支援	二宮 彰久	名大祭本部実行委員会委員長	毎年6月上旬に開催される名大祭の準備および当日運営
学生活動支援	新美 将平	相撲部主将 文学部地理学3年	「どすこい!!名古屋城 RAVE」イベント支援
学生活動支援	小倉 脩平	和式馬術部主将 経済学部経済学科3年	「名古屋大学流鏝馬デモンストレーション」の支援

◇平成18年度第1回

種類	申請者	所属・職名等	事業名
学生活動支援	木股 文昭	環境学研究科 教授	「勇気ある国際人」の養成
就職支援	伊藤 義人	附属図書館 館長	就職情報、社会人としての知識等を提供する中央図書館就職コーナーの整備
その他	高木 ひとみ	留学生相談室 講師	留学生と日本人学生が共に学びあい・支えあう国際教育プログラムの開発

◇平成17年度第2回

種類	申請者	所属・職名等	事業名
学生活動支援	小林 健嗣	名古屋大学下宿用品リユース市実行委員会	名古屋大学下宿用品リユース市への支援
学生活動支援	栗本 直樹	名大祭本部実行委員会委員長	毎年6月上旬に開催される名大祭の準備および当日運営
学生活動支援	山村 彰紀	陸上競技部 物理工学科応用物理学コース2年	「第18回出雲全日本大学選抜駅伝競走」出場への支援
本部・部局 行事支援	野水 勉	留学生センター 教授	「名古屋大学短期留学受け入れプログラム(NUPACE) 設立10周年記念シンポジウムとNUPACE・交換留学同窓会」への支援

◇平成17年度第1回

種類	申請者	所属・職名等	事業名
就職支援	杉村 和美	学生総合支援センター 助教授	学生が学生を支援するサポート制度づくり
就職支援	伊藤 義人	附属図書館長	就職情報、社会人としての知識等を提供する中央図書館就職コーナーの整備
その他	森田 美弥子	教育発達科学研究科 教授 名古屋大学学内保育所設置準備委員会 委員長	学内保育所の屋外遊具設置

◇平成16年度

種類	申請者	所属・職名等	事業名
学生活動	立石 啓介	経済学部2年生 (名古屋大学リユース市実行委員会)	名古屋大学リユース市
学生活動	村田 靖	名大祭本部実行委員会 実行委員長	(第46回) 名大祭
本部・部局 行事支援	澤木 宣彦	工学研究科長	「テクノ・フェア名大'2005」
就職支援	田中 京子	留学生センター 助教授	在学生を対象としたグローバル人材養成講座および説明会
その他	田中 宣秀	学生総合支援センター 就職支援アドバイザー	教養教育院の授業科目「キャリア形成論」

同窓会について

名古屋大学全学同窓会設立の理念

大学は大きな変革期を迎え、新しい大学のあり方が模索されている。名古屋大学ではその一環として、名古屋大学学術憲章を平成12年に制定した。その中で、名古屋大学は基幹的総合大学としての責務を持続的に果たすために、活発な情報発信と人事交流が必要であるとしている。大学が社会へ向けて情報発信および研究教育活動への参加や支援を求めるためには、大学構成員の努力だけでなく同窓生などの支援協力が不可欠であり、同窓会組織は重要な役割を果たす。

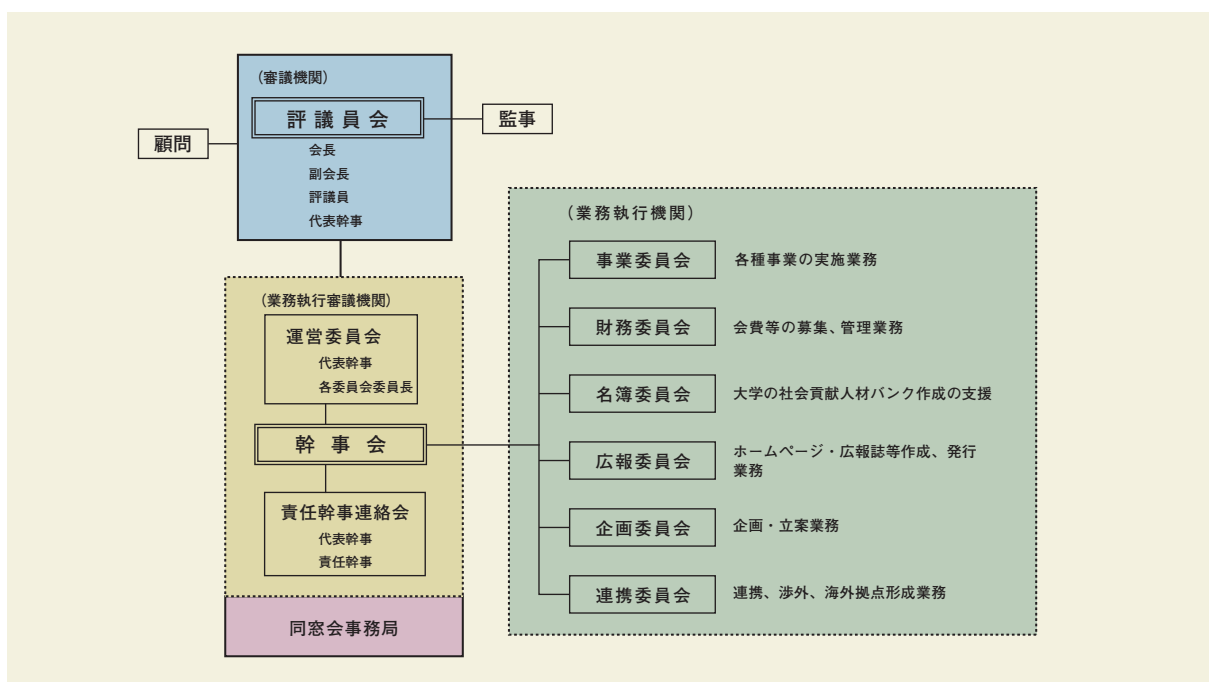
従来は、部局同窓会が同窓生間の情報交換や親睦などの役割を果たしてきた。しかし、その活動はそれぞれの部局に限定され全学的な広がりを持つことは少なかった。今後、大学の研究教育および同窓生などの社会的な活動を広く情報共有し、大学と同窓生などとのつながりを強める新しい形の同窓会活動が必要とされている。

社会に開かれた大学として名古屋大学が発展していくためには、大学と同窓会の緊密な連携が必要とされており、大学と同窓会は連携して社会に一層の情報公開を行い、社会から種々のニーズを汲み上げる必要がある。また、同窓生にとって、専門分野を越えての情報交流は従来にもまして重要であり、名古屋大学に全学同窓会組織を設立することが必要である。

名古屋大学全学同窓会は、以下の活動を行う。

- 1) 全学的な見地にならって、部局同窓会と連携しながら卒業生、学生、教職員の交流の場を提供する。また、名古屋大学全体の種々の活動に関する情報を同窓生などに発信する。
- 2) 中部地域の基幹的総合大学として、名古屋大学が地域社会や産業界と協力しながら進んでいく中で、全学同窓会は部局同窓会などと協力しながらその核となる。すなわち、名古屋大学全体の情報発信や人的交流において、全学同窓会は中心的な役割を果たし、名古屋大学が社会に開かれた大学になるように大学と連携協力する。
- 3) 全学的見地から、学術研究、教育および学生の支援を行い、国内外で指導的役割を果たし得る人材の養成を通じて、人類の福祉と文化の発展ならびに産業に貢献する。名古屋大学の声価を高め優秀な人材を集めるように大学と連携協力する。
- 4) 留学生を含む同窓生などの活動を把握し、大学と連携協力をはかり情報交換と人的交流を促進する拠点を形成する。
- 5) 各部局同窓会の相互の連携協力をはかるとともに、部局を越えた横断的な同窓会活動や組織造りを支援する。

名古屋大学全学同窓会組織図



名古屋大学全学同窓会会則

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、名古屋大学全学同窓会と称する。

(事務所)

第2条 本会の事務所は、名古屋市中種区不老町名古屋大学内に置く。

(会の目的)

第3条 本会は、名古屋大学と社会を結ぶ必須の組織として、名古屋大学の発展と社会への貢献を図るとともに、会員相互の交流、親睦等を目的とする。

(会の事業)

第4条 本会は前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- 一 名古屋大学との連携と協力
- 二 交流会、講演会等の開催
- 三 部局同窓会設立の支援
- 四 その他本会の目的に沿った事業活動

(支部)

第5条 会員の希望により支部を置くことができる。

第2章 会員

(会員)

第6条 本会は、次に掲げる者をもって構成する。

- 一 名古屋大学・名古屋大学大学院の部局同窓会の会員
- 二 前号以外の名古屋大学・名古屋大学大学院の卒業生・修了生、教職員及び教職員であった者
- 三 その他名古屋大学・名古屋大学大学院に関係のある者及び法人で、会長が認めた者

(準会員)

第7条 名古屋大学・名古屋大学大学院の在学学生は、準会員とする。

第3章 役員等

(役員構成)

第8条 本会に次の役員を置く。

- | | |
|--------|-----|
| 一 会長 | 1人 |
| 二 副会長 | 若干人 |
| 三 代表幹事 | 1人 |
| 四 幹事 | 若干人 |
| 五 評議員 | 若干人 |
| 六 監事 | 若干人 |

(役員選任)

第9条 会長、副会長、代表幹事、幹事及び監事は、評議員会において選任する。

(会長)

第10条 会長は、本会を代表し、会務を総理する。

- 2 副会長は会長を補佐する。
- 3 代表幹事は会務の執行を総括し、事務局を統括する。
- 4 幹事は、幹事会を構成し、会務を分掌する。
- 5 評議員は、評議員会を構成し、重要事項を審議する。

6 監事は、本会の会計を監査する。

(名誉会長)

第11条 本会に、名誉会長を置くことができる。

(顧問)

第12条 本会に、顧問若干人を置くことができる。

2 顧問は、会務に関する重要事項について助言する。

第13条 副会長、代表幹事、幹事、評議員及び監事は、評議員会の議を経て会長が委嘱する。

2 名誉会長及び顧問は、会長が委嘱する。

(任期)

第14条 役員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

第4章 会議

(会議)

第15条 本会の会議は、幹事会及び評議員会とする。

(幹事会)

第16条 幹事会は、会長、副会長、代表幹事及び幹事をもって組織する。

2 幹事会は、次に掲げる事項を審議する。

- 一 評議員会に付議すべき事項
- 二 評議員会の審議を要しない業務の執行に関する事項

(評議員会)

第17条 評議員会は、会長、副会長、代表幹事及び評議員をもって組織し、会長が招集する。

2 評議員会は次に掲げる事項を審議する。

- 一 会則の改廃に関する事項
- 二 事業計画及び事業報告に関する事項
- 三 予算及び決算に関する事項
- 四 会員の資格に関する事項
- 五 その他会長が諮問する事項

3 監事は、評議員会において本会の会計監査結果を報告するものとする。

(定足数)

第18条 会議は、構成員の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

第5章 会計

第19条 本会の経費は、支援会員(会員のうち支援会費納入者)の会費、部局同窓会分担金及び寄付金等をもって充てる。

(会計)

第20条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日で終わる。

(施行細則)

第21条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この会則は、平成14年10月27日から施行する。

役員名簿

平成24年10月1日現在

会 長

豊田章一郎 トヨタ自動車(株) 名誉会長 工 s22

副 会 長

岡田 邦彦 J.フロントテイリング(株) 相談役 経 s33

柴田 昌治 日本ガイシ(株) 相談役 法 s34

岡部 弘 (株)デンソー 特別顧問 経 s35

丹羽宇一郎 中華人民共和国駐劔特命全権大使 法 s37

齋藤 英彦 (独)国立病院機構
名古屋医療センター 名誉院長 医 s38

榊原 定征 東レ(株) 代表取締役会長 工 s40

宮池 克人 中部電力(株) 代表取締役副社長 工 s44

監 事

光岡 朗 公認会計士光岡朗事務所 所長 経 s34

成田 清 成田・長谷川法律事務所 弁護士 法 s44

顧 問

鈴木 礼治 (公財)愛知県国際交流協会 顧問 経 s27

太田 和宏 トヨタ紡織(株) 特別顧問 工 s29

加藤 延夫 10代総長 医 s29

松尾 稔 11代総長
(公財)名古屋まちづくり公社
名古屋都市センター 最高顧問

平野 眞一 12代総長
上海交通大学特別教授
平野材料創新研究所長 工 s40

代表幹事

伊藤 義人 情報基盤センター長
工学研究科 教授 工 s50

評 議 員

濱口 道成 総 長

國枝 秀世 副総長

竹下 典行 理事・事務局長

木俣 元一 文学研究科長

立川 武蔵 国立民族学博物館
名誉教授

藤井 知昭 アジア太平洋無形文化
遺産研究センター所長
研究センター所長

早川 操 教育発達科学研究科長

加藤 幸雄 日本福祉大学 学長

辻村 哲夫 共立女子学園 常務理事

定形 衛 法学研究科長

関谷 崇夫 法学部同窓会 前理事長

清水 哲太 トヨタホーム(株) 顧問

木村 彰吾 経済学研究科長

水野 金平 ホーユー(株)
代表取締役会長

伊藤 圭一 天狗缶詰(株)
名誉会長

落合 洋文 名古屋文理大学 教授

篠原 久典 理学研究科長

野依 良治 (独)理化学研究所
理事長

飛田 武幸 名古屋大学名誉教授

高橋 雅英 医学系研究科長

松尾 清一 副総長・
医学部附属病院長

太田 宏 医学部学友会
副会長・名古屋支部長

榊原 久孝 医学部保健学科長

鈴置 保雄 工学研究科長

清水 定彦 東邦ガス(株) 特別顧問

内藤 克彦 工学部・工学研究科
同窓会会長

前島 正義 生命農学研究科長

山下 興亜 中部大学 学長

福井 敏夫 中日本水糖(株)
取締役会長

藤川 清史 国際開発研究科長

木村 芳文 多元数理科学研究科長

前野みち子 国際言語文化研究科長

溝口 常俊 環境学研究科長

小川 克郎 名古屋産業大学
名誉教授

服部 滋 (資)三共建築設計事務所
所長

大西 昇 情報科学研究科長

澤田 誠 環境医学研究所長

松見 豊 太陽地球環境研究所長

田中 信夫 エコトピア科学研究所長

同窓会支部

◇国内支部

支部名	設立年月日	支部長名	現職
関東支部	2003年 3月26日	丹羽宇一郎	中華人民共和国駐劄特命全權大使
遠州会	2004年10月17日	庄田 武	静岡県地域文化団体連絡協議会会長
関西支部	2004年11月17日	笈 哲男	三洋化成工業(株)名誉顧問

◇海外支部

支部名	設立年月日	支部長名	現職
韓国支部	2005年 5月 5日	王 成宇	白石大学校教授
バングラデシュ支部	2005年10月23日	Md. Sayeedul Islam Khan	GRAM BANGLA Sangstha 名誉会長
上海名古屋大学同窓会 (上海支部)	2005年11月11日	唐 駿	中国GAOTIME(株)代表取締役社長 マイクロソフト中国終身名誉総裁
タイ国支部	2005年12月14日	Apinun Suprasert	カセサート大学獣医学部長 教授
北京名古屋大学同窓会 (北京支部)	2007年 5月21日	潘 偉	清華大学教授
ベトナム支部	2007年 9月 7日	Le Thanh Long	ベトナム司法省副大臣
カンボジア支部	2008年 9月 5日	Bora Meas	カンボジア専門大学副学長 教授
モンゴル支部	2009年 9月 3日	Altantuya Jigjidsuren	モンゴル保健省THSDP プロジェクトディレクター
ウズベキスタン支部	2010年 3月11日	Bakhodir Merganov	ウズベキスタン中央銀行部長
台湾名古屋大学同窓会 (台湾支部)	2011年 7月 9日	簡 玉聰	国立高雄大学助教授

名古屋大学全学同窓会
10周年記念誌

2012年10月20日発行

編集・発行

名古屋大学全学同窓会
〒464-8601 名古屋市千種区不老町